

「連合ながさきユニオン」結成大会

“1人でも加入できる労働組合が誕生!”



連合長崎では、通年的に「なんでも労働相談ダイヤル」での労働相談を行っています。しかし、相談者のほとんどが雇用先に労働組合がなく、これまで会社との交渉が必要な場合でも直接交渉することができないなどの問題がありました。また、当面の間、様々な理由により産別への加盟ができない労働組合も存在しています。

このような問題を解決すべく、連合長崎としても悲願であった、“1人でも加入できる労働組合”、「連合ながさきユニオン」の結成大会が、3月29日(土)、長崎県勤労福祉会館にて開催されました。

結成大会は、冒頭、連合長崎の宮崎事務局長が「現在は、組合員が年々減少し、組合の組織率も低下しており、長崎県内のサラリーマンも7人に1人しか労働組合に入っていない状況である。このような中、長崎県内の皆さんに連合運動を知ってもらう活動が必要だ。本日は、記念すべき『連合ながさきユニオン』の結成大会を迎えた。組合員を増やして『連合長崎ここにあり』という活動を行っていききたい」と開会挨拶を行いました。次に、連合長崎組織拡大推進会議委員長として連合長崎・石

井副会長が主催者あいさつを行い、続いて来賓を代表して、連合長崎・森会長、連合本部・寺田総合組織局長、民主党県連・宮島代表代行、社民党県連合・泉原幹事長、九州労働金庫長崎県本部・中崎本部長から激励の挨拶を受けました。

その後、連合長崎・佐竹副事務局長が「連合ながさきユニオン」結成に向けた経過報告を行い、議案については、第1号議案「連合長崎地域ユニオンの名称について(案)」から第5号議案「連合長崎地域ユニオン役員(案)」まで一括して提案し、賛成多数により承認されました。

最後に大会宣言文(案)が採択され、「連合ながさきユニオン」の執行委員長に就任した連合長崎・宮崎事務局長の「がんばろう三唱」で閉会しました。

これから「連合ながさきユニオン」は、宮崎執行委員長のもと、1人でも多くの困難な状況にある労働者を支援していくとともに、組織拡大へとつなげていきます。情報提供など各構成組織、各地協の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

労働者保護ルール改悪反対！

『STOP THE 格差社会！暮らしの底上げ実現』

全国総行動を5/27(火)に開催！

現在、政府は、「労働者保護ルールの改悪」に向けた動きを本格化しようとしており、「裁判で解雇無効となっても、企業がお金さえ払えば解雇が認められる『解雇の金銭解決』」、「解雇しやすい正社員を増やす懸念のある『限定正社員制度』の普及」、「何時間残業しても残業代が支払われず、長時間労働を誘発する恐れのある『ホワイトカラー・イグゼンプション』の導入」などを検討しています。また、国会では、労働者派遣法の改正審議も始まろうとしています。加えて、ILOの公労使三者構成の原則を無視し、労働者の代表が参加しない場でのような議論が進められていることも極めて問題です。

連合は、このような政府の動きに断固反対するため、4月18日には、東京・日比谷野外音楽堂において4,000人規模となる「STOP THE 格差社会！暮らしの底上げ実現 4.18中央総行動」を開催しました。

5月27日(火)には、全国の働く者の声を結集するため、中央で行われる「STOP THE 格差社会！暮らしの底上げ実現」全国・中央総行動の開催にあわせて、同日同時刻に47都道府県で集会を行う「全国総行動」が実施されます。

連合長崎においては、長崎地区、県央地区、県北地区で同様の集会を開催するべく、現在、準備を進めています。集会では、インターネット中継を活用して連合・古賀会長の挨拶など中央総行動の集会などの行動の配信を予定しています。

長崎からも、「STOP THE 格差社会！暮らしの底上げ実現」、「労働者保護ルール改悪反対！」の声をあげ、世論喚起を行い、全国のうねりにつなげていきましょう。各構成組織、各地協のご支援・ご協力をお願いします。

●「5.27『STOP THE 格差社会！暮らしの底上げ実現』全国総行動」の開催場所(予定)

地区	日時	場所
長崎	5月27日(火) 18時30分から	NCC & スタジオ「コンベンション施設」
県央	5月27日(火) 18時30分から	大村市勤労者センター 講堂
県北	5月27日(火) 18時30分から	佐世保市労働福祉センター 大会議室



4.18 中央総行動 結集集会



4.18 中央総行動 デモ行進

「連合長崎寄付講座」が開講！

教育文化協会 南雲理事長(4/16)、
連合長崎 森会長(4/23)が講義を開催！

「連合長崎寄付講座」が長崎大学経済学部にて4月9日のオリエンテーションを皮切りにいよいよ始まりました。講義室には、予想を上回る500名以上の学生が集まり、後ろに立って受講する学生も見受けられました。

第2回目の講義からは実際の講義が始まり、4月16日(第2回目)には、前連合の事務局長である教育文化協会・南雲理事長から「働くことをどうとらえるか～労働組合がめざす社会像とは～」というテーマで、4月23日(第3回目)には連合長崎の森会長から「労働組合とは何か?～労働組合の基礎知識～」というテーマでそれぞれ講義が行われました。学生たちは真剣に講義を受講し、講義の最後には、学生らしい新鮮な質疑



連合長崎
森会長

が出されていました。

今後も、連合長崎副会長をはじめ、長崎労働局、県労福協、全労済、九州労働金庫などの関係団体役員が講師となり、7月16日までの毎週水曜日(計15回)に講義を行います。また、最終日となる7月16日には、連合・古賀会長をお迎えし、「働くことを軸とする安心社会にむけて」というテーマで講義を行っていただくことになっています。それぞれの講義を通じて、社会人予備軍である学生たちに「働くことの意味」や「労働組合の必要性」などを伝えていけるよう、講師一同、頑張つてまいります。

教育文化協会
南雲理事長



南島原市議会議員選挙

ご支援・ご協力ありがとうございました 連合長崎推薦 金子憲太郎(自治労)が見事当選！

連合長崎推薦の「金子憲太郎(自治労組織内)」候補は、定数21名に対し26名が立候補した厳しい選挙戦を制し、見事8位で2期目の当選を果たしました。

ご支援いただいたすべての皆様へ感謝申し上げます。

来年は、統一自治体選挙が施行されます。一人でも多くの組織内・友好議員を誕生させ、連合が掲げる「働くことを軸とする安心社会」の確立をめざしましょう。各構成組織、地協・ブロックのご支援・ご協力をお願いします。

選挙結果

8位 金子憲太郎:1,261票



核兵器廃絶・平和シンポジウム

～2015年NPT再検討会議に向けてキックオフ～

連合・原水禁・KAKKINの3団体主催による「核兵器廃絶・平和シンポジウム」が4月14日(月)に広島県民文化センター(広島市)で開催され、全国から約500名が参加、連合長崎からは13名が参加しました。

● 主催者代表あいさつ 古賀 申明 連合会長

「2010年に開催されたNPT再検討会議では、全面的な核兵器廃絶が確認されたにも関わらず、未だに1万7千発余の核兵器が存在している。『核兵器禁止条約』に関する交渉を2015年NPT再検討会議を契機に早急に開始し、実質的な核軍縮や核兵器不拡散の合意を得ることが極めて重要である」と述べ、連合・原水禁・KAKKINの3団体としての取り組みを強化していくことを訴えました。



● 来賓あいさつ 松井 一實 広島市長 (平和首長会議会長)

「平和首長会議の加盟国は158ヶ国、加盟都市数は6000都市を超えた。国内では1800の市町村のうち8割を超える都市が加盟している。人口で言えば10億人、世界の人口の7分の1が加盟した組織となる。この市民が核兵器廃絶への思いを共有し、行動すれば、基盤となる国際世論は確実に動く」と訴えました。

● NPT I外相会合(報告)

野口 泰

(外務省軍縮不拡散・科学部 軍備管理軍縮課長)

4月11日12日に広島市で開催をされたNPT I外相会合の概要について報告があり、「わが国で初めて、かつ被爆地である広島での外相会合開催は、NPT I各国として『核兵器のない世界』に向けた取り組みをこれまで以上に積極的に取り組むためのまたとない機会となった」と評価しました。

● 講演「核兵器廃絶に向けて何をすべきか」

水本 和実

(広島市立大学広島平和研究所 副所長・教授)

過去のNPT再検討会議の成果や、核兵器の非人道性をめぐる動き等に触れ、「核兵器の非人道性に関する訴えを、いかに具体的な提案につなげていくかが問われている」と提起しました。



● 被爆者からの訴え

広島県被団協 島山 裕子さん

当時6歳、爆心地から3kmあまりの安佐郡長束村の国民学校で被爆した体験をお話いただき、「原爆による放射線がんが、原爆投下から70年近く経った今も発症していることを知ってほしい」と訴えました。

● 3団体からの決意表明

石井 一清 連合広島会長

佐古 正明 原水禁広島代表委員

堀谷 俊志 KAKKIN広島副議長

「連合・原水禁・KAKKINの3団体は、2015年のNPT再検討会議に向けて、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざして、職場や地域で核兵器廃絶運動に粘り強く取り組み、日本政府と国連に対して3つのことを要請すること」を確認しました。

- ・2015年NPT再検討会議で、2010年合意を再確認し、核兵器廃絶への着実な道筋について合意すること。
- ・核兵器の製造、保有、使用等を全面的に禁止する「核兵器禁止条約」に関する交渉を2015年NPT再検討会議を契機に開始すること。
- ・2020年までに世界中のあらゆる核兵器の廃絶を実現すること。

● 閉会あいさつ 森 光一 連合長崎会長

「来年の再検討会議に向けた私たちの行動が最も重要なものになる。核兵器廃絶に向けて、まず必要なの

は、今回のような運動を継承・拡大していくこと、そのために本日集まった皆さんとともに世代や国境を超えた活動が大切である。さらに、次世代へ私たちの思いを広く継承していくことも、私たちの使命である。」と述べ、シンポジウムを閉会しました。

シンポジウム終了後、連合長崎からの参加者は、連合本部・連合広島のメンバーとともに「核兵器廃絶1000万署名」街頭行動を原爆ドーム前など3箇所を実施し、署名を呼びかけました。



「核兵器廃絶1000万署名」街頭行動

私の提言

「働くことを軸とする安心社会」の実現にむけて

連合 安心社会

検索

募集

連合は、初代事務局長である故・山田精吾氏の遺志を受け創設された「山田精吾顕彰会の論文募集」事業を継承し、2004年から「私の提言 連合論文募集」をおこなってきました。第11回目の募集となる今回も、連合が提起している「働くことを軸とする安心社会」の実現につながる提言を広く募集します。皆さんからの提言を活かしながら、労働運動をさらに前進させたいと考えています。

1 募集内容

- (1) 連合が提起している「働くことを軸とする安心社会」の実現につながる**具体的な提言**をお寄せください。
- (2) 提言はオリジナルで未発表のものに限ります。
(新聞、雑誌、書籍、報告書などに発表されたものは応募できません)
※過去の応募提言のテーマや入賞者については、教育文化協会のホームページの「文化事業-私の提言」の欄に掲載しております。

2 応募の対象と方法

- (1) **どなたでも応募**できます。
(組合員、組合役職員、組合OBに限らず、学生の方など、どなたからの応募も歓迎いたします)
- (2) 応募は電子媒体(E-Mailなど)を原則とします。

3 表彰

- (1) 選考：第11回「私の提言-「働くことを軸とする安心社会」の実現にむけて-」運営委員会で審査します。
- (2) 表彰：優秀賞 表彰盾と副賞 **20万円**
佳作賞 表彰盾と副賞 **10万円**
奨励賞 表彰盾と副賞 **3万円**
※連合第68回中央委員会(2014年10月2日)で表彰予定
☆応募者には、もれなく記念品を進呈(除く、入賞者)

4 書き方

- (1) 表題
提言内容が分かる具体的な表題を必ずつけてください。
- (2) 本文
① 用紙はA4判とし、横書きで縦長に用いてください。
② 字の大きさは11ポイント。1行は全角40字1ページ35行としてください。
③ 余白(マージン)は上下各25mm、左右各27mmとし、ページ番号を中央下に付してください。
④ 字数は、「6,000~8,000字程度」を目途に、「上限10,000字」とします。(本文の最後に概ね何字かを記入してください。図表分も字数に換算、出典の注記は、字数から除いてください)
- (3) 図表・参考文献
① 図表の下に出所を必ず明記してください。
② 他の文献から引用する場合は、引用箇所にカギ括弧をつけ、通し番号を記し、最後に一括して出典を注記してください。

5 執筆者略歴や連絡先など

- (1) 別紙に、下記の点を明記してください。
① 氏名、現職(所属・役職名、学生の場合は学校名・学年など)、略歴【100字以内】
② 住所、電話番号、Eメールなどの連絡先
③ 「私の提言」募集を知った媒体(教育文化協会のホームページ、チラシなど)
- (2) 応募の際にいただいた個人情報、提言募集以外での目的には一切使用いたしません。入賞提言は、「入賞提言集」および教育文化協会のホームページに掲載させていただきます。その場合、応募提言および氏名、現職、略歴のみを公表いたします。

6 応募締切

2014年8月18日(月)必着

7 発表

2014年9月19日(金)予定
※教育文化協会ホームページにて発表し、追って入賞提言を全文掲載いたします。

8 受付・問い合わせ先

■公益社団法人 教育文化協会

第11回「私の提言-「働くことを軸とする安心社会」の実現にむけて-」募集係
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11
連合会館1階

電話 03-5295-5421
FAX 03-5295-5422
URL <http://www.rengo-ilec.or.jp/>
E-Mail info-ilec@ebu.jtuc-rengo.or.jp

みんなで
応募
しよう!!

